●水環境･湖沼(6)　(3-B-10-4～3-B-12-1)

水環境･湖沼(6)では、琵琶湖における農薬、ダイオキシン類、生物等に関する発表と、電気化学的手法を用いた浄化方法の開発等の発表が行われた。それぞれの発表内容について紹介する。

(3-B-10-4)「琵琶湖内湖における水田施用除草剤の動態」では、琵琶湖東岸に位置する曽根沼における除草剤の動態に関することが報告された。曽根沼の流入及び流出口の除草剤の濃度から、収支を算出した。浄化機構については、今後の検討課題である。

(3-B-11-1)「CALUX assay による琵琶湖北湖コア底質中ダイオキシン類の歴史トレンド解析」では、底質のコアサンプルの分析結果と CNP に含まれた DXNs 量の経年変化の関係より、底質中のダイオキシン類は、CNP 由来の割合が大きいと考えられることが報告された。焼却由来等については、今後の検討課題である。

(3-B-11-2)「琵琶湖沿岸ヨシ群落の植生遷移に及ぼす土壌条件の影響」では、帰化植物であるチクゴスズメノヒエが繁茂したのは、ヨシの活着を目的として設置された消波施設が原因であったということが報告された。

(3-B-11-2)「農薬がホンモロコ仔魚に及ぼす影響と琵琶湖北湖北部における残留濃度」では、農薬のホンモロコ仔魚に及ぼす影響について検討した結果が報告された。ホンモロコの生育に影響を及ぼすと考えられるその他の要因(外来魚や産卵場所の減少等)については、今後の検討課題である。

(3-B-11-4)「電気化学的方法を用いた富栄養化の浄化における藻類の除去」では、通電することにより、葉緑体の構造を破壊し、藻類の生長を停止または遅延させる手法の基礎的実験結果について報告がなされた。

(3-B-12-1)「電気化学的方法を用いた富栄養化水の浄化における大腸菌群の除去」では、通電により、大腸菌群数の減少がみられたという報告がなされた。

本セッションでは、汚染源等検討中や基礎的実験結果の発表が多く、今後の研究成果が期待される。

(福岡県保健環境研究所　石橋　融子)